

# 県立病院ニュース

2010年  
1月発行

企画・編集 福島県病院局病院経営改革課 電話：024-521-7228 Eメール kenritsubyouin@pref.fuushima.jp

## 高地病院事業管理者あいさつ ～新年にあたり職員へのメッセージ～

### 「平成22年を迎えて」



高地病院事業管理者

明けましておめでとうございます。

職員の皆様には恙なく新年を迎えられたことと思います。

平成22年が皆様にとって、県立病院にとって、そして社会全体にとってぜひとも良い年になってほしいものです。

旧年は、一昨年後半に始まったリーマンショックの影響が吹き荒れた一年であり、政治・経済などさまざまな意味でわが国の歴史に残る年でした。そして、県立病院にとっても大きな転換期を迎えた年であり、5月に策定した「福島県立病院改革プラン」に基づいて、地域に質の高い医療を提供し病院経営の健全化を図る実行元年でありました。



残念ながら経営改善の面では未だ目に見える成果は出ていませんが、これまでの状況を分析した上で、皆さんと一緒に力を合わせながら、今年こそ県立病院の再生の実をあげていく必要があると考えております。

さらに、昨年11月には国の地域医療再生臨時特例交付金に基づき、医療機能の充実強化を図るため「福島県地域医療再生計画」が策定されましたが、これには「会津・南会津地域」と「相双地域」が事業対象地域とされ、県立病院を含む多くの特徴ある事業が企画されています。是非とも地域の独自性を備え、且つ時代の情勢に対応した医療環境を整備したいものです。

このような新たな状況の変化に対応しつつ確実に計画を実現していくためには、職員の皆様一人一人が地域医療を支え病院運営に参画していることを認識するとともに、さまざまな職種の方々が連携を密にしながら、お互いに知恵を出し合って課題の解決にあたる必要があると思います。知識や技術の研修は、現場で実践されることによってはじめて研修の意味が出てまいります。同様に、計画も策定されただけでは、単なる絵空事に過ぎません。創意と努力によって現実のものとしたときに、初めて計画に魂が入ることになります。

今年も医師確保の強化など重要な基本的課題が山積しておりますが、医大など関係機関と信頼関係を築きながら着実に具現化していくつもりでありますので、職員の皆様におかれましても、それぞれの立場から持てる力を十分発揮して、ご協力下さるよう切にお願いいたします。

どうか健康には十分留意しつつ職務に専念され、年末には皆様それぞれが充実した平成22年であったと実感できる一年になることを期待しております。



ただいま審閲中

#### コラム～とある贈り物～

長年お世話になった感謝の気持ちとして、患者様から大野病院へ絵画の寄附がありました。大変ありがとうございました。

矢吹病院では、病院機能評価 ver 6 の認定取得に向けて、職員一丸となって準備に取り組んでいます。訪問審査は2月17日から3日間です。矢吹病院の皆さんの健闘をお祈りします。

地域医療再生  
計画とは？

★★★ 特集 病院経営セミナー ★★★ 第1弾勉強会



医療を取り巻く環境について意見交換を行うため、12月初旬から各病院を訪問して「第1回病院経営セミナー」を開催しました。今回は、最近の医療行政の動向として、「地域医療再生計画」を共通テーマとして行い、これまでの計画策定までの経過や会津・南会津地域、相双地域で実施される事業内容についてプレゼンテーションを行いました。

各病院合わせて260人程度の参加があり、今後の病院経営への前向きな質問や病院局に対する厳しい意見が出るなど、核となる現場職員と率直な意見交換が行われました。

アンケートでは、「興味深い内容でもっと具体的に聞きたかった」、「何のためのセミナーなのか」など様々な意見があり、あらためて現場職員と病院局との認識の差があるということも痛感させられました。継続性については、8割の方が継続してほしいという結果でした。

- 参加者数 262名程度
- アンケート回収 163名分(回収率62%)
- 説明時間について(プレゼン時間40分)

日程	12月4日(金)	会津総合病院
	12月10日(木)	宮下病院
	12月16日(水)	大野病院
	12月17日(木)	矢吹病院
	12月21日(月)	南会津病院
	12月22日(火)	喜多方病院

適当	短い	長い
130(80%)	8(5%)	25(15%)

○今回のテーマについて

大変参考	参考	普通	あまり	まったく	その他
20(12%)	77(47%)	47(29%)	15(9%)	3(2%)	1(1%)

○はじめてセミナーを開催しましたが、継続性の有無について

ぜひ継続	継続	どちらでも	やめるべき	その他
64(39%)	72(44%)	20(12%)	1(1%)	6(4%)

福島県地域医療再生計画概要

25億円(会津・南会津医療圏)

25億円(相双医療圏)

県内全医療圏 ○医師確保対策(494百万円)  
(\*事業費計上は会津に133 相双に361)

- 医師確保対策(422百万円)  
★会津総合病院整備
- へき地支援のための役割分担と連携の促進(1,133百万円)  
★ITネットワーク化構築  
南会津・宮下に電力ループ
- へき地における救急医療の支援(367百万円)
- へき地における周産期医療の支援(435百万円)
- 住民協働で地域医療を守る取組(10百万円)

- 医師確保対策(807百万円)
- 救急医療体制構築(1,007百万円)  
★救急センター整備  
★多目的医療用ヘリコプター導入  
★医療機器整備  
★浜通り連携強化
- 在宅医療の充実強化(313百万円)  
★地域医療総合センター  
★訪問看護ステーション拡充
- 住民協働で地域医療を守る取組(12百万円)  
★人材育成プロジェクト

今後も継続して情報提供を行い、お互いに知恵と力を出し合い創意工夫を行いながら、地域と密着した病院運営を行っていききたいと思います。そのためには、医師をはじめとする人材の確保と、何よりも地域と一緒にやっていくというスタッフの情熱と豊かな発想力が、今後の地域医療を担っていく県立病院としての鍵にぎっているのではないかと考えられました。

トピックス～県立病院看護研究発表会～

新年早々、平成22年1月6日(水)に、県立医大看護学部において、「第23回県立病院看護研究発表会」が開催されました。当日は、これまで業務との両立で取り組んできた各テーマについて、16名の方々から研究報告が行われ、活発な意見交換が行われました。

今後も質の高い看護業務を通じて、地域医療の充実が期待されます。

研究テーマ	病院名	研究者
◆ワーファリン内服治療中患者のビタミンK含有食物への認識と摂取状況に対する調査	会津総合病院	○押部香澄 近藤タカ子
◆頑固に退院を拒否する患者の関わりを通し見えてきたこと	矢吹病院	○北澤利江
◆身体拘束中断基準の有効性～拘束中断基準スコア表を導入して～	矢吹病院	○増子宗宏 菅野慎一 相楽昌寿
◆B病院におけるせん妄ケア改善	宮下病院	○佐藤あゆみ
◆入退院をくり返し、化学療法を受ける患者と家族の思いの実態	喜多方病院	○清川智子 中川みどり
◆病院における人工関節全置換術後の眠剤服用を希望した患者の体験	大野病院	○金山敬子
◆手術室看護師の看護実践能力獲得の実態	会津総合病院	○安達法子 齋藤恵美子 川崎優子
◆肢体不自由児施設において看護師がとらえている看護の質への影響	療育センター	○千葉千代美
◆清潔ケアに対する患者ニーズと看護師が考えている患者のニーズ	大野病院	○渡邊恵美 本山恵子
◆退院の見通しが無い精神科長期入院患者が願うこととは	矢吹病院	○大津久美
◆胃内視鏡検査における不安に関する実態調査	宮下病院	○富田佳加
◆A病院における看護師の標準予防策に関する行動の実態と認識	大野病院	○大橋純子 川村真理子
◆家族の立場に立って死後のケアを考える～看護師の意識調査から～	会津総合病院	○鈴木祐子
◆口腔ケアに対する家族の満足度	南会津病院	○湯田貴子 佐藤由利 湯田真紀
◆「たんぽぼ室」の療育環境を考える～空気環境・フロアマットの調査から～	療育センター	○佐久間静枝
◆職場で暴力を受けた精神科看護師が望むサポートとは ～暴力発生後にディブリーフィングを実施して～	矢吹病院	○渡辺真成 安生朝子 小林由美子 相楽昌寿 佐久間せい子 菅野慎一 鈴木泰子 関根洋子 長谷川玲子

平成21年度  
研究者一覧

【編集後記】年末年始は下郷町に帰省しましたが、毎年のことながら大雪に見舞われました。道路状況は地元業者の天下一品の腕前の除雪で心配ありませんが、気温の低さから走行中のワイパーブレードが凍って視界がきかなくなり、数回コンビニに立ち寄っては氷を降り落とすというありさま。これもまた、毎年1～2回は経験する風物詩となっています。(K.M)